



中央地区社会教育情報誌「つなぐ」No.52号をお届けします。

昨年10月下旬から11月下旬にかけて、中央地区9市町村教育委員会の生涯学習・社会教育主管課室を、県生涯学習課中央地区担当者が訪問させていただきました。各市町村の今年度の取組の成果や課題等をお聞きするとともに、各市町村の協議題について意見交換を行うことができました。

各市町村から事業計画の取組状況や中央地区社会教育の重点（①学びを支える体制の整備、②学びを進める計画の遂行、③学びを広げる機会の充実、④学校・家庭・地域の連携・協働の推進）に係る取組状況を細かくお聞きしたところ、以下のようなことが挙げられていました。一部を紹介します。

○3地区公民館の特色を生かした公民館講座を実施するとともに、今年度からその年代に求められる講座内容を土日開催や夕方からの開催等、講座形態を工夫しながら、学び直し講座を提供し好評を得ている。

○放課後子ども教室「きらきら塾」において、講師の高齢化による人員不足が課題ではあるが、新規講座の実施や協働活動サポーターとの連携等、地域の特性を生かした運営をしている。

○学校運営協議会を通じて、地域の高齢者団体による学習支援や部活動の地域移行に関する協議が進められている。

○生涯学習推進計画にある指標の目標値が明示された事務事業評価票をもとに事業評価をし、課題の検証とともに事業改善に生かしている。

○国際教養大学生と奨励員が意見交換した取組は、学生の地域理解を促しただけでなく、奨励員に役割を見直してもらう機会になった。

○地元高校生を講師にしたスマホ教室の実施、地域住民に対するオンラインに対応できる力の養成と、高校生の地域貢献の意識向上を図ることができた。

○昨年度からの新規事業である世代を超えた社会教育講座「みんなの学校」のプログラム冊子を他地域に積極的に提供した。

「みんなの学校」事業に興味・関心が高まっており、幅広い年齢層の要望が垣間見られる。

○社会教育委員や行事・講座参加者の意見を参考にし、行事の内容の見直し、改善を図っている。また、担当職員は行事・講座にできるだけ参加し、住民にとって身近な存在であるよう努めている。

○県主催の研修会や会議に参加し、他市町村との情報共有に努めている。



また、各市町村から提示された協議題についても意見を交わしました。

今振り返ってみると、ほとんどがもともとは「少子高齢化」や「人口減少」に起因する協議題だったように思います。

「学校統廃合にかかわる社会教育活動」「人口減少による公民館運営や地域とのつながりづくり」「情報弱者への支援方法」「伝統文化活動継承にかかる人材育成」等々、各市町村が実際に取り組んでいるからこそその悩みであり、もっとよりよくしたいと切実に悩んでいるという思いがひしひしと伝わってきました。これらは、どこの地域でも、どの分野でも、今後長く課題になっていくものかと思われます。

当日の協議の中では、いくつかの方向から参考例等を紹介させていただいたり、アドバイスさせていただいたりしましたが、まずは地域住民のニーズをしっかりと把握しながら各市町村の実情や考え方に合わせて一步一步取組を進めていってほしいと思います。

今回話題になったことについて、今後有益な情報等があれば御提供したいと思いますので、よろしくお願いいたします。



【各市町村からの協議題】

秋田市	○高等教育機関、民間団体との連携事業実施の手法について ○社会教育事業への若年層の参加促進について ○「障害者の生涯学習」に係る県の取組について
男鹿市	学校統廃合を見据えた地域学校協働活動について
潟上市	地域と公民館の関わり方について
五城目町	各地区公民館の在り方～地域の特色を生かしたコミュニティの活性化の推進～について
八郎潟町	地域における芸術文化活動に関わる人材発掘と育成について
井川町	○町と地域のコミュニティのつながりについて（町行事への参加率の低下の課題等） ○情報に関する社会教育について（情報弱者への講座、支援等）
大潟村	ＩＣＴを活用した公民館運営などについて
由利本荘市	○学校・家庭・地域連携総合推進事業の進め方と点検について ○障害者の生涯学習について
にかほ市	地域学校協働活動支援事業での協働活動サポーターとボランティアについて

今回の訪問で伺った内容は、今後の県や中央地区の生涯学習・社会教育に関する施策や事業運営の参考にさせていただきます。お忙しい中、快く受け入れて下さりありがとうございました。

令和5年度 中央地区各市町村の特色ある事業・取組の紹介 その2

今年度、中央地区の各市町村生涯学習・社会教育主管課室で実施した特色ある事業・取組について2回に渡って紹介しています。前号のNo.51号では、秋田市・八郎潟町・井川町・にかほ市の取組を紹介しましたが、今回は、男鹿市・潟上市・五城目町・大潟村・由利本荘市の取組を紹介します。

各市町村の御担当者の皆様、情報提供ありがとうございました。

「たくさんのあいさつが生まれ、 みんなが生き生きと暮らすまちを目指して」

9月30日（土）に脇本コミュニティセンターで、あいさつをテーマにした大型アートポスターづくりを開催しました。

このイベントは、今年度、男鹿市民憲章推進協議会が力を入れている「あいさつ運動」の推進を目的に、放課後子ども教室と連携して実施したものです。当日は、子どもたちと保護者、地域住民がチームに分かれ、テーマに沿って4枚の個性あふれる素敵なポスターを仕上げました。

ポスターは手形・足形を付けたり、色紙を貼ったり、カラフルに描いた絵や文字で、楽しく、元気な「あいさつ」を表現しています。参加者からは「最初の一筆は緊張したけど、チームで力を合わせて画用紙いっぱいに大きく描くことができた」、「久しぶりに子どもと触れ合うことができて楽しかった」などの感想が寄せられました。

完成したポスターは、道の駅おが「オガーレ」や市内公民館・コミュニティセンターに巡回展示し、あいさつ運動の更なる推進を図っています。



「子ども遊びの広場」

『子ども遊びの広場』は、子どもたちが遊びを通して交流を図り、一人ひとりの個性を伸ば

しながら生きる力を育むために天王グリーンランドまつりの一環として実施しています。

今年度は8月20日（日）に開催し、バルーンアートや輪投げなどを実施しました。バルーンアートは講師の方に依頼し、会場を盛り上げていただきました。見る見るうちに出来上がっていく剣や動物のバルーンに、保護者の方も驚かれていました。どのバルーンアートにしようか悩む子どもや、一心不乱に輪を投げる子どもなどで賑わい、はつらつと元気に遊ぶ子どもたち一人ひとりの個性が輝いていました。保護者の方からは、「『子ども遊びの広場』を開催してくれてありがとうございます。」との声を掛けていただきました。

今後も遊びを通して子どもの健全な育成を図るため、運動遊びや造形遊びのほか、季節行事の開催を計画していきます。



「みんなの学校2023」

令和4年10月からスタートした「大人も通える小学校」をテーマにした「みんなの学校」

ですが、各種メディアなどからも取り上げられ、今年度も講座数を増やし7月7日（金）からスタートしました。その後に発生した大雨災害の影響で一部中止を余儀なくされた講座もありましたが、9月からは無事に再開することができました。

昨年からの五城目小学校との連携講座や放課後子ども教室推進事業「わらしべ塾」とのコラボ講座以外にも、役場職員が講師を務めた「みんなの税金」や町出身のダンサーKOTANGさんによる「HIPHOP スペシャルレッスン」などの講座を実施しました。

みんなの学校では趣味から職業訓練まで幅広いテーマを取り上げています。学ぶことで人生を豊かにし、新たな出会いや集いの場所になることを期待しています。



「リーダー研修」

10月26日（木）、令和5年度各種社会教育団体リーダー研修を実施しました。

このリーダー研修は、隔年毎に実施されており、社会教育団体のリーダーを対象に、見聞を広めながらリーダーとしての役割認識や、資質向上を図ることを目的としています。

参集団体は、「婦人会」「フレッシュミズ（※旧若妻会）」「生涯学習奨励員」で、12名が参加しました。

今年度は、羽後町を研修先としました。まず始めに向かったのは、西馬音内盆踊り会館です。館内には100年を超える歴史を持つ古い踊り衣装のほか、盆踊りの様子を人形で再現したものや、藍染めの大きな壁掛け、キルトのタペストリーなど、120人を超す地元の女性たちによる手作り作品が展示されています。また、200インチの大型スクリーンで、踊りの映像資料を鑑賞することもでき、参加者は大変熱心に見入っていました。

昼食は、農家キッチン「あるもんで」にお邪魔しました。あるもんでの営業場所である旧長谷山邸は明治15年に建築された豪農のお屋敷です。太い梁や大きな土間、電話交換手と呼び出すタイプの電話機など、食事以外にも見所がたくさんありました。また、お料理は旬の食材を使った、とても手間のかかった品々が11品と大変満足感があり、味もどれも絶品でした。昼食後は併設されている鎌鼬美術館を見学させていただいた後、道の駅「端縫いの郷」に立ち寄って帰路に着きました。

他団体と交流を図ることができ、とても有意義な時間となりました。



「入部400年記念事業」

由利本荘市は元和9年（1623年）に、現在の由利本荘市に六郷・岩城・打

越の3氏が入部し、令和5年で400年を迎えました。

「時を紡いで400年 輝く未来へ由利本荘」というキャッチフレーズのもと、400年の節目を市全体でお祝いし、これからへつなげていこうと様々な催しを開催しました。

生涯学習課では、400年事業に関連して、資料館等での企画展を開催したり、郷土学習リーフレットを作成し小中学校へ配布したりしました。また、大阪城天守閣前館長の北川央氏による地域活性化講演会、現代の地図と18世紀に作成された享保絵図を見比べながら、新たに設置した旧城下町のまちあるき説明看板を巡るまち歩き体験講座などを行いました。

参加者の方からは、「歴史を知ること、今まで歩いていた道の見え方が変わる」「地域の歴史を学ぶことは、これまでの歴史の学習よりも内容が深く、想像力も求められる」といった声がありました。

分からないことや難しいことは、敬遠していたのですが、内容をかみ砕き少しでも分かると楽しくなるのだと実感した1年でした。本荘公園を歩く度に、今年教えていただいた、かつて存在した古道の話を思い出します。

